

政策 1 地域経済の活性化を図るまちづくり

目標

(めざすまちの姿)

地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち

現状と課題

本市は、多くの企業が立地する産業集積都市としての側面をもち、「北大阪健康医療都市（健都）」では、国際級の複合医療産業拠点の形成も進められています。また、開業率は全国的にみて高い水準となっています。

地域の産業は、市民の雇用を確保するとともに、市民の暮らしを支える基盤でもあります。近年、経済のグローバル化により競争が激化する中、感染症を含む災害への備え、また、デジタル化への対応も求められており、中小企業の経営基盤の強化、加えて創業や事業承継への支援が重要となっています。商店街においては、市民の暮らしを支え、コミュニティの核ともなる魅力ある商店街づくりに向けた支援が必要です。また、都市における農地は、貴重なみどりの空間や自然とのふれあいの場などとしても役立っており、都市と調和する農業の振興が求められています。

雇用・労働環境においては、働く意欲のある全ての人々が、雇用形態にとらわれず多様な働き方ができる環境づくりが求められています。本市では、「JOB ナビすいた」などで、働く意欲がありながらさまざまな課題を抱える就職困難者に対する支援を行っており、求職者一人ひとりの状況に応じた就労支援のさらなる充実を図る必要があります。また、少子高齢化による労働力人口の減少や離職率が高い分野では恒常的な人材不足となっており、求職者とのミスマッチの解消に向けた取組が必要です。さらに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、だれもが働きやすい環境づくりへの支援が必要です。

市民意識指標
(主に関連するもの)

	H26	R4 (速報値)	R10 目標
商工業の振興に満足している市民の割合	10.8%	17.2%	20%

目標への評価
(R4)

	そう思う どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	そう思わない どちらかと言えばそう思わない
市民	41.6%	45.6%	12.1%
市職員	54.2%	39.6%	6.2%

令和元年度（2019年度）以降のトピックス

- 令和2年度（2020年度）に、コロナ禍による急激な経済への影響が生じ、国や府による給付金等の支援がされ、本市においても小規模事業者応援金の支給など、事業者への支援策を実施しました。
- 西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市の隣接中核市（NATS）で、労働相談窓口の相互利用を開始しました。



施 策

7-1-1 産業振興と創業支援 都市魅力部

中小企業などの経営の安定や事業拡大、創業者の育成や定着に向けた支援を行います。また、魅力ある商業地づくりに向けて、空き店舗の活用への支援を行います。さらに、農地のさまざまな機能を活用しながら、都市農業の振興に取り組みます。

7-1-2 就労と働きやすい環境づくりへの支援 都市魅力部

就労相談や職業紹介などの充実を図り、求職者一人ひとりの状況に応じた就労支援を行うとともに、事業者の人材確保に向けた支援に取り組みます。また、働き方改革で求められる労働環境の改善に向けた相談や啓発などを行います。

■ 施 策 指 標 ■

施 策	指 標 名	策定時	見直し時 (R3)	目 標 (R10)
<u>7-1-1</u>	<u>市内の事業所数</u>	—	<u>11,654 事業所</u>	<u>11,700 事業所</u>
7-1-1	商店街及び小売市場における空き店舗率	9.3% (H29 年度)	9.1%	7%
7-1-2	JOB ナビすいたを活用した年間就職者数	612 人 (H29 年度)	122 人	<u>230 人</u>
7-1-2	「障がい者就職応援フェア」への参加者数	52 人 (H29 年度)	27 人	85 人

▶▶▶ 関連する主な個別計画

- 商工振興ビジョン ○農業振興ビジョン

▶▶▶ 関連する主な条例

- 産業振興条例 ○企業立地促進条例

政策 2 文化・スポーツに親しめるまちづくり

目標

(めざすまちの姿)

文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち

現状と課題

文化やスポーツは、市民の生きがいや健康づくりにつながり、市民生活を豊かにするとともに、活動を通じて地域コミュニティの形成にも貢献しています。

本市は、文化会館（メイシアター）など、文化・芸術にふれられる環境が整っているとともに、地域では、市民サークルなどによるさまざまな文化活動が行われています。地域には、文化活動や日々の暮らしの中で、形づくられてきた多くの文化資源があります。市民主体の文化活動への支援を行うとともに、文化や芸術にふれることができる機会の充実や文化財の保存活用を図る必要があります。また、多文化共生社会の実現のため、地域に暮らす国籍や民族、文化の異なる市民が、違いを認め合いながら共に暮らすための取組を多角的に行うことが重要です。

近年、健康づくりの取組が注目される中、スポーツや運動は誰もが生涯にわたって親しみ、健康寿命の延伸や地域のつながりを深めるものとして、重要な役割を担っています。また、地域では、市民主体のさまざまなスポーツ活動が活発に行われていますが、さらに運動習慣化への支援や子供から高齢者までそれぞれの体力、年齢、目的に応じたスポーツ活動が進められるよう、地域とも連携し、スポーツに親しめる機会の充実や指導者の育成を図る必要があります。

市民意識指標
(主に関連するもの)

	H26	R4 (速報値)	R10 目標
芸術文化を親しめる環境として満足している市民の割合	15.0%	17.1% (H30)	20%
成人の週1回以上のスポーツ実施率	36.7%	35.7% (H30)	50%

目標への評価
(R4)

	そう思う どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	そう思わない どちらかと言えばそう思わない
市民	58.3%	33.2%	8.0%
市職員	74.2%	23.4%	2.4%

令和元年度（2019年度）以降のトピックス

- ・メイシアターの大規模改修が終了し、リニューアルオープンしました。
- ・コロナ禍においても文化・芸術活動に親しめるよう、デジタルコンテンツの充実、動画配信等、活動への支援を行いました。



施 策

7-2-1 文化の振興

都市魅力部

文化会館（メイシアター）などの身近な場所で文化や芸術にふれることができる機会を提供するとともに、市民の文化活動への支援を行います。また、多文化共生推進のための様々な取組を進めます。

7-2-2 文化財の保存と活用

地域教育部

地域の文化に関する調査研究を行うとともに、文化財を適切に保存します。また、市内のさまざまな文化財の活用及び博物館の有する多様なコンテンツのデジタル化を図り、市民の文化活動などを支援します。

7-2-3 地域におけるスポーツの振興

都市魅力部

地域におけるスポーツ活動を支援するとともに、指導者の育成を行うなど、市民が気軽にスポーツに参加できる機会の充実に取り組みます。また、体育施設を適切に管理し、スポーツに親しめる環境づくりを進めます。

■ 施策指標 ■

施策	指標名	策定時	見直し時 (R3)	目標 (R10)
7-2-1	文化会館（メイシアター）の年間入館者数	48.6 万人 (H28 年度)	17.5 万人	50 万人
<u>7-2-1</u>	<u>市の文化事業に出演・出展した市民の延べ人数</u>	=	<u>2,173 人</u>	<u>2,400 人</u>
<u>7-2-1</u>	<u>外国人等支援施策において支援した延べ人数</u>	=	<u>52 人</u>	<u>100 人</u> <u>(差替え予定)</u>
7-2-2	吹田市立博物館の年間入館者数	3.4 万人 (H29 年度)	1.3 万人	3.5 万人
<u>7-2-2</u>	<u>「バーチャル・ミュージアム」へのアクセス数</u>	=	<u>0.8 万件</u>	<u>2.9 万件</u>
7-2-3	スポーツイベントやスポーツに関する講座などへの年間参加者数	7.5 万人 (H29 年度)	<u>0.8 万人</u>	<u>7.5 万人</u>
<u>7-2-3</u>	<u>「社会体育リーダー協議会」の会員数及び「公認スポーツ指導員」の登録者数</u>	=	<u>1,743 人</u>	<u>2,100 人</u>
<u>7-2-3</u>	<u>各スポーツ施設の年間利用者数（個人使用・団体使用・スポーツ教室・スポーツ大会等）</u>	=	<u>75 万人</u>	<u>100 万人</u>
<u>7-2-3</u>	<u>学校体育施設開放事業の年間利用者数（団体利用・スポーツ教室等）</u>	=	<u>24.2 万人</u>	<u>40 万人</u>

▶▶▶ 関連する主な個別計画

○文化振興基本計画 ○多文化共生推進指針

▶▶▶ 関連する主な条例

○文化振興基本条例 ○文化財保護条例 ○吹田市立博物館条例

政策 3 市民が愛着をもてるまちづくり

目標

(めざすまちの姿)

まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、
住み続けたいと思えるまち

現状と課題

本市は、高い交通利便性や豊かなみどりなどにより、良好な住環境が形成されています。また、多くの企業や大学が立地しているとともに、市立吹田サッカースタジアムや万博記念公園といった魅力的な地域資源により、多くの人が訪れるまちでもあり、今後開催予定の「2025 大阪・関西万博」を活用するなど、同公園周辺エリア等の一層の活性化や魅力の向上・発信が求められます。さらに、「すいたフェスタ」をはじめとするイベントが盛んであるなど、暮らしにおけるさまざまな面で充実していることが本市の特徴となっています。

市民が愛着や誇りをもち、「住み続けたい」「離れても戻りたい」と思えるまちの実現に向けて、「シティプロモーションビジョン」に基づき、今あるまちの魅力のさらなる向上や新たな魅力づくりに取り組む必要があります。また、市民がまちの魅力を感じられる機会を充実させることで、本市の魅力が市民から市内外へ広がるよう仕掛けていくことが重要です。

本市は、立地する 5 つの大学などにより、大阪府内で学生数が最も多く、様々な場面で活気がもたらされるなど、まちの魅力向上につながっています。また、市立吹田サッカースタジアムは、Jリーグ「ガンバ大阪」のホームスタジアムであり、レベルの高いプロの試合を身近に体感できるなど、本市の新たな魅力の 1 つとなっています。市民のまちへの愛着の醸成に向けては、そのような本市独自の強みを積極的に活用していくことも重要です。

市民意識指標
(主に関連するもの)

	H26	R4 (速報値)	R10 目標
市の魅力を伝える取組に満足している市民の割合	7.5%	13%	15%

目標への評価
(R4)

	そう思う どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	そう思わない どちらかと言えばそう思わない
市民	67.7%	26.0%	5.6%
市職員	80.4%	16.7%	2.9%

令和元年度（2019年度）以降のトピックス

- ・情報発信プラザ（Inforest すいた）をリニューアルオープンさせました。
- ・「吹田まつり」を「すいたフェスタ」として生まれ変わらせ、新たな企画を加えて万博記念公園で開催しました。

施 策

7-3-1 魅力の向上と発信 都市魅力部

今ある本市の強みをさらに伸ばしていくとともに、市民との連携を深めながら、新たな魅力づくりに取り組みます。また、地域資源を活用しながら、市民がまちの魅力を感じられる機会の充実を図るとともに、多様な手法による効果的な魅力の発信に取り組みます。

7-3-2 本市独自の強みを生かしたまちづくり 都市魅力部

市の組織全体で大学との連携を進め、豊富な人材、情報、技術などのまちづくりへの活用や貢献を図ります。また、さまざまな団体との連携を深めながらガンバ大阪のホームタウン活動を盛り上げ、地域ぐるみでの応援の機運を高めます。

■ 施策指標 ■

施策	指標名	策定時	見直し時 (R3)	目標 (R10)
7-3-1	<u>すいたフェスタへの参加者数 (来場者数)</u>	＝	<u>1.7万人</u> (R4)	<u>2万人</u>
7-3-1	「情報発信プラザ（Inforest すいた）」への年間入場者数	39.5万人 (H29年度)	17.4万人	45.0万人
<u>7-3-1</u>	<u>すいたん Twitter など SNS フォロワー数</u>	＝	<u>1.8万人</u>	<u>2.5万人</u>
7-3-2	大学との連携による事業やイベントなどの年間実施回数	96回 (H29年度)	152回	<u>160回</u>
<u>7-3-2</u>	<u>連携授業等への参加を契機に市政への参画意欲が向上した学生の割合</u>	＝	<u>今年度 調査予定</u>	<u>50%</u>
7-3-2	ガンバ大阪と小学生のふれあいイベントなど応援イベントへの年間参加者数	2,032人 (H29年度)	3,245人	5,000人

▶▶▶ 関連する主な個別計画

○シティプロモーションビジョン

▶▶▶ 関連する主な条例

—